

動物実験を減らしたい

3年1組19番 二木唯花、3年2組28番 目黒瑚々音
3年5組36番 山崎亜純、3年5組26番 中上ゆず

Keyword : 「動物実験」「署名活動」「JAVA」「化粧品」「ニホンザル」

1. はじめに

我々はメンバー全員が犬を飼っており、動物が好きだ。日常で使用している化粧品の安全性を試験するために、動物実験が行われていることを知った。動物実験の調査を進めると、イヌ、ネコ、ネズミ、サルなどが、化粧品の安全性を試験するための動物実験に使われていることがわかった。そこで、動物実験をなくすことはできないのかと考え、研究を始めた。

2. 序論

・目的

私たちのグループはグローバル探究の際、日常で使用している化粧品が動物実験に使用されていることを知った。動物実験についての調査を深めると、イヌ、ネコ、ネズミ、サルなどが実験に用いられていることが分かった。これらの動物は実験で皮膚が焼かれたり、目に薬品が注入されたりしている。一方で、日本生理学会は、「ヒトの健康と福祉を追求する医学研究にとって動物実験は必須の手段である。薬や医療技術が開発されると、その薬、あるいは技術が、いかに人体に作用するか、副作用はないか等を細心の注意をもって調べる必要がある。これらの研究の多くは生体を用いることを不可欠とし、人間を用いた研究や試験も行われる。しかし、人間を用いる研究には、当然、厳しい限界があるため、やむを得ない策として、人間と同じ生命原理が働いて生きる動物に犠牲を求める必要がある。」と論じている。このことから、薬害などから人の健康を守るためには動物実験をゼロにすることはできないと考えられる。

本研究では、動物実験の現状を我々消費者がよく知ることで、残酷な手段によって苦しむ動物を少しでも減らすことができるのではないかと考え、消費者に動物実験について周知することを目的とした。JAVA(NPO法人動物実験の廃止を求める会)とPEACE(Put an End to Animal Cruelty and Exploitation)は、ニホンザルプロジェクトにおいて、動物実験のために繁殖・供給されているニホンザルの飼育状況と、これまでの事業の結果などを確認するために公開質問状の送付や情報開示請求を行ったり、ニホンザルプロジェクトを終わらせることなどを働きかけている。この署名活動を国際中学校・高等学校で行うことで、動物実験の現状を我々高校生が知るきっかけを作るとともに、必ずしも動物実験に必要でないといわれるニホンザルを、動物実験に使わないという署名活動に協力した。

・方法

JAVA(NPO法人動物実験の廃止を求める会)にメールで問い合わせをし、ニホンザルプロジェクト廃止の署名活動への協力を申し出た。また、署名活動前後に署名活動に協力した人に対してアンケートを行った。

3. 本論

・結果

a. 学内の発表等による知識の共有

署名活動および署名活動前後にアンケートおよび、本校における「たてにつながる探究交流会」での発表やゼミ内発表を行い、国際中学校・高等学校の生徒に、動物実験に関する基礎知識を広めた。例えば、動物実験に使われている動物の種類や頭数、動物実験を

行うためだけに繁殖されている動物の存在などについて知らせた。「たてにつながる探究交流会」では、以下のような意見をいただいた。

- 動物実験はしてはいけないのか
- 代替法を使うことで結果が変わったりしないのか
- 動物と人間は体の作りが違うのに実験でなぜ安全だと証明できるのか

また、活動をより良くするための以下のような意見があった。

- 高校生が購入しやすい、「動物実験をしていない商品」の紹介をしてほしい
- 動物実験が何か詳しく教えてほしい

b. 署名活動

JAVAの「ナショナルバイオリソースプロジェクト『ニホンザル』による動物実験用のためのサルの繁殖・供給の廃止を求めます。」の署名を行った。

署名内容は、「毎年動物園、野猿公苑から300頭のサルとその子供を実験用に提供し続けている。オランダは化粧品の動物実験を法律で禁止している。そのオランダの様に2025年までに動物実験に頼らないイノベーションの世界的リーダーになることを宣言している国もある。日本も、動物の実験使用の廃止を目指すべき。認知力が高く、社会性も強い霊長類を実験に用いるのは国際的に批判の声が大きく、規制強化の方向性にあるリソースに将来性がないのでまず、第一歩として『ニホンザル』プロジェクトを終わらせるべき。」である。

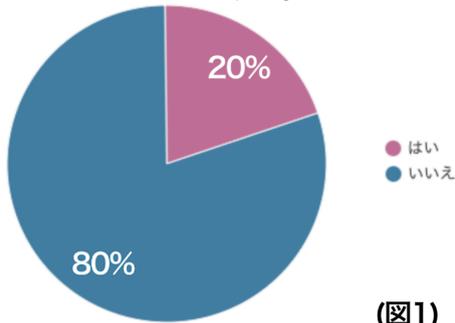
この署名を2023年6月12日～2023年6月16日の1週間行い、校内の102名に署名していただいた。

署名活動前後のアンケートを行い、255人から回答を得た。アンケート内容は以下にある通りである。

- 「動物実験をしていない商品を使ってみたいか」
- 「動物実験に対する意識は変化したか」
- 「なぜ動物実験していない商品を買わないのか」
- 「動物実験していない商品を知っているか」

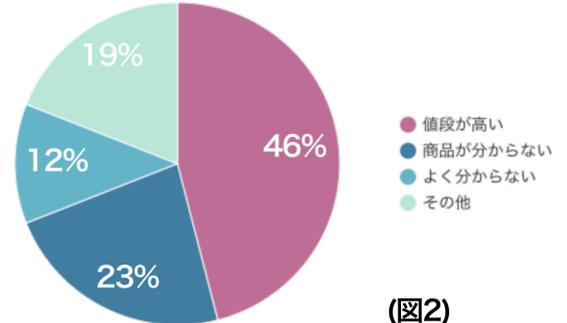
アンケートの結果、71.6%が動物実験をしていない商品を使ってみたいと思っているが(図3)80%が動物実験していない商品を知らないと答えた(図1)。また、なぜ動物実験していない商品を買わないのかという問いに対しては46%が値段が高い、23%がどの商品を買えばいいのかわからないと答えた(図2)。

動物実験は薬品や化粧品を作る際に行われているのですが、動物実験していない商品を知っていますか。



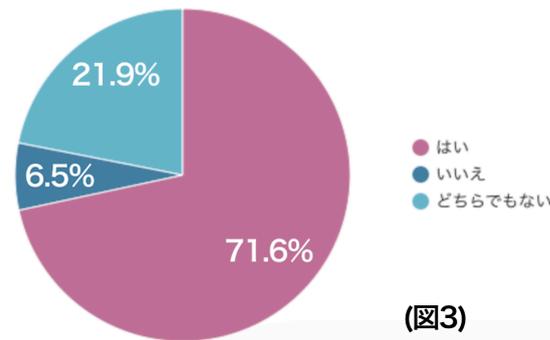
(図1)

動物実験していない商品を購入しない理由



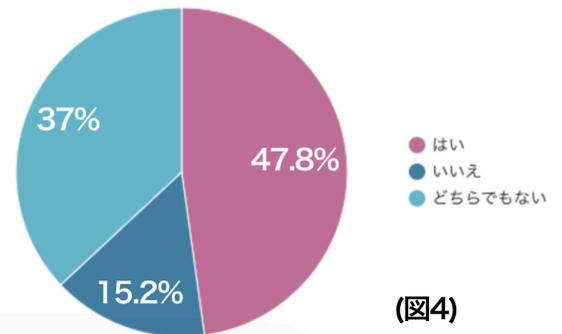
(図2)

動物実験していない商品を使ってみたいですか。



(図3)

署名をしてから動物実験に対する意識は変わりましたか。



(図4)

・考察

学内発表とアンケートの結果から、動物実験が自分達の身近なものでも行われているということを知らなかった人が多く、まず動物実験の実態について知ってもらえたということがわかった。また、署名活動とアンケートを行なった結果から動物実験をしていない商品を使ってみたいという人は71.6%と多く、今後動物実験をしていない商品を買う可能性もあると考えた。

4. 結論

・まとめ(要約)

私たちの活動によって動物実験に関心を持ってもらうことができ、更にNPO法人JAVAの活動に参加することで、意識の変化や関心をもつことだけではなく、実際に動物実験を減らすことに貢献することができた。

・今後の課題

動物実験していない商品を知っている人が20%と少ないので、校内の生徒に動物実験していない商品をポスターや、SNSなどで紹介していく必要がある。また、校内にとどまらず奈良県や全国の方々に動物実験で犠牲になった動物たちがいることを伝えていきたい。加えて、動物実験していない商品を買わない理由の46%が値段が高いということから価格の抑えられた商品も一緒に紹介していく必要がある。また、学内発表で頂いた意見にあった代替方法を使うことで結果が変わったりしないのか、動物と人間は体の作りが違うのに実験でなぜ安全だと証明できるのかという意見について答えられるように探究していきたい。

5. 参考文献

- 1.NPO法人 動物実験の廃止を求める会「動物実験のこと」
<https://www.java-animal.org/animal-testing/>,参照日2022.
- 2.NPO法人 動物実験の廃止を求める会「動物実験を使わない実験方法『代替法』」
<https://www.java-animal.org/animal-testing/alternative/>,参照日2022.
- 3.宮崎博之、吉山友二「日本における動物実験代替法の技術展開」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/fpj/151/2/151_48/_pdf,参照日2022.
- 4.日本学術会議「動物実験の適正な実習に向けたガイドライン」
<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-20-k16-2.pdf>,参照日2022
- 5.アニマルライツセンター「動物実験に反対する理由」
<https://arcj.org/issues/animal-testing/at762/>,参照日2022.
- 6.なるほどSDGs「動物実験反対・賛成それぞれの意見は？動物実験の『3R』」
<https://naruhodosdgs.jp/3r/>,参照日2022.
- 7.クルエルティフリードットコム「【2023年版】動物実験していないメーカーリスト一覧」
<https://www.crueltyfree-goods.com/2020/10/28/no-animal-testing/>,参照日2022.
- 8.NPO法人 動物実験の廃止を求める会「大手化粧品メーカー19社からの回答を掲載」
<https://www.java-animal.org/topics/2013/08/23/8238/>,参照日2022.
- 9.NPO法人 動物実験の廃止を求める会「JAVAコスメガイドVol.5」NPO法人 動物実験の廃止を求める会出版,2015